

伊勢志穂です。無所属で企業や組合などからの団体推薦はいただきず、マスコミが言うところのいわゆる『無党派市民層』の利益を反映するように心掛けながら、4期、盛岡市議として仕事をさせていただいて来ました。

まず、本題に入る前に。候補予定者がどのようなことを考えているのか、市民が知る機会は非常に少なく、私は以前から不満を感じていました。ですから、主催者のみなさんに、本日のような機会を与えていただいたことに、御礼を申し上げます。

今回は、何人かの方に「市議選以外の選挙に出ることを期待する」と言われました。この事自体は今まで行ってきた活動に信頼をいただいたという点で、大変ありがたく感じています。ただ、私にはあまり向いていない考え方かなとも思っています。私は不器用で『市議から県議へ、県議から国会へ、最後は知事で上がり』という双六のようなやり方は出来ない人間です。むしろ、県政や国政を市民の要望に添ったものに変えていくためには、基礎自治体である市で、市民要望に沿った活動をすることで、県や国に対する要望を明確にしていくことが私の役割であると考えています。

私の活動スタイルは、市民の要望を聞き、賛同していただける方々と一緒に調査を行い、運動を起こし、その力で行政を動かすというものです。例えば、築川ダム利水の縮小やホスピス設置の運動の結果とした癌対策の充実、自転車走行レーンの拡充、チャイルドラインなどの子ども支援、生活保護制度以外の困窮者対策の充実などは、そのような形で一定の成果を上げてきたと思っています。この活動スタイルで、まだまだ盛岡市議としてやれることがあると考えました。

政策についてお話しをさせていただきます。

私は2期目に行った質問の中で、4つの目指すべき方向についてお話ししました。それは1.格差の是正 2.市民参加 3.公正な競争 4.多様性を認める社会の4つです。私の政策はこの基本方針に沿って行われます。

私の公約は・就学支援金や小児医療費助成の拡充・フードバンクを困窮者支援の制度に・連帯保証人制度の緩和・社会的孤立と貧困を減らすしくみづくり・社会的少数者の権利擁護・バスや電車など公共交通や自転車を使いやすく・国に対し意見が主張できる地方自治の形成・大富裕層への資産課税で、復興と医療・教育・介護の個人負担の軽減・消費税増税反対・安保法案反対・原発再稼働反対、自然エネルギーの振興 以上です。詳細は時間がないので、ご質問等ございましたら私の事務所までお尋ねいただくか、本日、終わりましたからお声がけいただければ、と思います。

私が一番力を入れたいと考えているのは、盛岡市を『子どもの貧困をなくす街』にしたいとい

うことです。ご存じの方も多いと思いますが、現在、子どもの貧困率は16%を超え、6人に1人の子どもが貧困状態にあります。特に19歳以下の子どもがいる母子家庭の貧困率は57%にもおぼり、2人に1人が貧困です。(2011年国立社会保障・人口問題研究所)しかし、生活保護を受けているシングルマザーは全体の14%しかいません。

今日ここにいらしてくださっているみなさんの中に、このような子どもたちを実際に知っている方はいらっしゃいますか？

わからないですよね？現代では、困っている人たちの社会的な孤立が進んでしまっているため、昭和の時代と違って、貧困が見えない状況になっています。でも、確実にいるんです。昨年の10月に、仲間と一緒に、生活困窮者に食料支援を行うフードバンク岩手という団体を結成しましたが、ここに食料支援を求めている人たちの中に、一日に食べる食事が学校給食の一食だけという子どもがいました。

世界第3位の経済大国で、この国の将来を担う子どもたちの中に、満身に食事も取れない子どもたちがいる。貧困を解消するはずの制度があるのに、必要な人に十分に届いていない。こんな情けない状況を放って置いて良いはずがないと私は思います。子どもの貧困対策がまず、緊急の課題です。

就学支援金や小児医療費の拡充、食料支援だけではなく、困っている人たちに確実に支援が届く体制を作る、つまり生活困窮者自立支援事業の量的拡大・質的向上に一番の力を注ぎたいと思います。